

教諭の指標

教員としての素養

採用時の姿		ステージⅠ・Ⅱ・Ⅲ、指導教諭、主幹教諭共通
京都市の教員としての 自覚・使命感	<ul style="list-style-type: none">○本市教育の理念である「一人一人の子どもを徹底的に大切にすること」という子どもに対する教育的愛情と教職に対する使命感や情熱をもっている。○本市教育の目指すべき方向について理解し、その実現に向け、取り組み意欲や姿勢がある。○子どもや保護者と信頼関係を築きながら、子どもと共に学び、共に成長していくとする姿勢がある。○教員の職務内容の全体像や教員に課せられる服務上・身分上の義務を理解し、法令遵守を含め社会人として求められる倫理観をもっている。○人権尊重の精神をもち、子ども一人一人の人権や多様な価値観を尊重した教育活動の重要性を理解している。	<ul style="list-style-type: none">○本市教育の理念である「一人一人の子どもを徹底的に大切にすること」という子どもに対する教育的愛情と教職に対する使命感や情熱に裏打ちされた教育実践を進めることができる。○本市の目指す「伝統と文化を受け継ぎ、次代と自らの未来を切り拓く子ども」の育成に向けた教育活動を推進できる。○法令を遵守し、誠実かつ公正に職務を遂行するとともに教育公務員としての使命を自覚し、子どもや保護者との信頼関係を築こうと努める。○社会の変化を意識し、広い視野と向上心をもって学び続けるとともに、幅広い教養や体験に基づいた指導力と豊かな人間性の涵養に努める。○人権に関する確かな理解と豊かな人権感覚をもち、子ども一人一人の個性・特性や多様な価値観を尊重した教育活動を進めることができる。○「見逃しのない観察」「手遅れのない対応」「心の通った指導」を常に念頭に置き、一人一人の子どもと向き合い、課題や問題に対し、その背景を的確に理解し、適切な指導と支援に努める。○子どもの命を守りきる教育活動・学校運営の徹底に向け、安全管理に対する自身の意識を高めるとともに組織的な取組を進めることができる。
	連携・協働する力	<ul style="list-style-type: none">○学校・幼稚園教育目標の実現に向け、子どもへの丁寧な見取りや教職員間の情報共有等から多角的に自校・園の課題を捉え、それを適切に分析し、解決に向けて取り組むことができる。○保護者や関係組織、地域との連携の重要性を理解し、「開かれた学校づくり」に向けて積極的に関わることができる。○多様な考え方を柔軟に受け入れ、謙虚に学ぶ姿勢を持ち、周囲と円滑なコミュニケーションを図ろうと努める。○多様な人材が活躍できる職場づくりに努めるとともに、「真のワーク・ライフ・バランス(仕事と家庭、社会貢献の調和)」の視点も踏まえ、ICTも活用しながら、学校における「働き方改革」を意識し校務を遂行することができる。

【留意事項(次ページ 学習指導関連事項)】

学習指導に関する校種、職務別の資質・指導力

【幼稚園】

- 〇幼児一人一人の遊びの志向性の理解と具体的な行動の予想に基づき、幼児の主体的な活動を促す教育環境の構成と一人一人に願いをもって援助をすることができる。
- 〇「安心・安定」、「自己発揮」、「協同性」を軸にした幼児期の発達過程を見通し、“子どもが夢中になって遊び込む”保育を目指すことができる。

【総合支援学校】

- 〇三者の願い(本人・保護者・指導者)に基づいた「個別の包括支援プラン」を作成し、計画的な授業を実施、評価・改善することができる。
- 〇「個別の包括支援プラン」に基づく、保護者、関係機関等と連携したケース検討を実践することができる。

【育成学級担任】

- 〇一人一人の子どもの教育的ニーズに応じた「個別の指導計画」を作成し、交流及び共同学習等の計画的な授業実践・学習評価を行うことができる。
- 〇子どもの自立と社会参加を目指し、校内での共通理解や幼小、小中、中高といった学校間段階の円滑な接続等、学びの連続性を重視した教育を実施することができる。

【通級指導教室担当教員】

- 〇一人一人の子どもの適切な実態把握を行い、「個別の指導計画」の作成に積極的に参画し、それに基づく、自立活動の指導・学習評価を行うことができる。
- 〇子どもの自立と社会参加を目指し、在籍学級担任や学年との連携、学校間段階の円滑な接続等、学びの連続性を重視した教育を実施することができる。

【高等学校】

- 〇社会で生きていくために必要となる力を共通して身に付けることのできる、初等中等教育最後の教育機関であることを認識し、一人一人の個性と特長を見据えながら、成長段階に応じた適切なキャリア教育を展開することができる。
- 〇教科に関する造詣や専門性を常に磨くとともに、市立高等学校全体を見通した、生徒の多様性に応じた指導ができるよう研鑽し、勤務校の教育目標や生徒の特性を十分に理解した教育活動を実践することができる。

学校づくり

採用時の姿		ステージⅠ (主に採用1～5年目)	ステージⅡ (主に採用6～14年目)	ステージⅢ (主に採用15年目以上)
		教員としての基礎・基本の徹底を図る。	学年や分掌等のチームリーダーとして 学校運営に参画する。	管理職等を補佐し、学校運営において 中心的な役割を担う。
参 学 校 と 連 携 性 の 高 め ら れ る 化	<ul style="list-style-type: none"> 〇「報告・連絡・相談」を徹底し、他の教職員と協調しながらチームとして仕事を進めることの大切さを理解している。 〇学校教育活動の推進のためには保護者や地域、関係機関との協働が重要であることを理解し、自身も積極的に関わろうとする意欲や姿勢がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 〇校務分掌や学校運営の仕組みを理解し、自分に課された校務分掌の仕事責任をもって果たすことができる。 〇チーム学校という考え方や保護者、地域等と連携することの意義を理解し、管理職や他の教職員に「報告・連絡・相談」をしながらか教育活動の充実に取り組むことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 〇効率的に分掌間の連携や情報共有を図るとともに、分掌の要として、自校園の課題解決に向けた取組を企画・調整することができる。 〇保護者・地域、他校種や関係機関との連携の意義をステージⅠの教員に伝え、また、自分自身がそうした連携に積極的に関わり、教育活動の充実に取り組むことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 〇分掌主任に対する助言を行うとともに自校園の課題を捉え、管理職や主幹教諭、指導教諭等と協働しながら、その解決に取り組むことができる。 〇保護者・地域、他校種や関係機関との連携において、管理職を補佐し、組織的に教育活動の充実に取り組むことができる。
	〇JITの推進	<ul style="list-style-type: none"> 〇学校組織の一員としてOJTに関わり、自身の資質・指導力を高めることができる。 〇校外研修や研究会活動等で学んだことを積極的に同僚に伝えること等を通して、学校園の組織力の向上に貢献できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 〇学年・学校全体へ視野を広げ、得意分野や専門性を活かし、ステージⅢの教員との連携やステージⅠの教員への指導、助言等を通して自身の資質・指導力を高めることができる。 〇教職員間で、課題や悩みに気付き、支え合える環境をつくるとともに、ステージⅠの教員を組織的に支援し、力を発揮できる組織づくりを行うことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 〇豊富な経験を活かし、広い視野でOJTに関わり、ステージⅠ・Ⅱの教員への指導、助言等を通して自身の資質・指導力を高めることができる。 〇管理職等と連携・協働しながら、ステージⅠ・Ⅱの教員に対し、具体的に適切な助言を日常的に行い、OJTを通して専門的な知識や技能を伝え、学校園の組織力の向上に取り組むことができる。

ステージⅠ	ステージⅡ	ステージⅢ	指導教諭・主幹教諭
・学習指導、生徒指導等の教育活動全般において採用前から習得してきた基礎的な知識や技能を活用し、組織の一員として職務が遂行できる。	・学習指導、生徒指導等の教育活動全般において実践的、専門的な知識や技能を習得、活用し、学年や分掌等のチームリーダーとして助言ができる。	・学習指導、生徒指導等の教育活動全般において、より高度な知識や技能を習得、活用し、学校全体の教育力の向上に向け、他の教職員へ助言ができる。	・学習指導、生徒指導等の教育活動全般において更なる深化を図り、熟練の知識や技能を活かし、他の教職員の模範となる取組を推進することができる。 ・今日的な教育の動向や学校実態を踏まえ、豊かな学びに繋がる教材の開発や多様な指導方法を効果的に取り入れた授業実践を展開する等、学校全体の教育力の向上に貢献できる。

	採用時の姿	ステージⅠ・Ⅱ・Ⅲ、指導教諭、主幹教諭共通
学習指導	<p>○学習指導要領（幼稚園教育要領）を理解し、それを踏まえて指導計画、学習指導案を作成し、指導、評価ができる指導技術を身に付けている。</p> <p>○校種間連携や教科間連携の重要性を認識するとともに、ICT機器の活用、学校図書館の利活用等により、主体的・対話的で深い学びの実現に向けて授業（保育）を改善する意欲をもっている。</p>	<p>○学習指導要領（幼稚園教育要領）、京都市指導計画を基盤として、子どものよさや可能性を最大限に伸ばす指導と評価を充実させながら、「わかる喜びと学ぶ楽しさ」が実感できる授業（保育）を展開することができる。</p> <p>○教科間連携、校種間連携の重要性を理解し、「カリキュラム・マネジメント」を踏まえた主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業（保育）改善を進めることができる。</p> <p>○お互いの生き方や価値観の違いを認め合い、そのよさを伸ばしつつ、共通して守るべきものはしっかりと身に付けていく「しなやかな道徳教育」の実践を組織的、計画的に推進することができる。</p> <p>○国際化、情報化がさらに進展する社会を見据えて、子どもたちの情報活用能力や社会への関心を高めるために、ICT機器や学校図書館の利活用等を進めることができる。</p> <p>○社会的・職業的自立の基盤となる「基礎的・汎用的能力」（下記注参照）を育成するために、子どもの発達を踏まえ、地域社会と連携・協働しながら、教育活動全体を通じて、生き方探究教育を進めることができる。</p> <p>※幼稚園、総合支援学校、育成学級担任、通級指導教室担当者、高等学校については〈留意事項【学習指導に関する校種、職務別の資質・指導力】前ページ〉も参照。</p>
学級（HR）経営	<p>○多様性を大切にしながら、子ども一人一人が生き生きとした学校生活を過ごすことのできる学級（ホームルーム）風土を築こうとする意欲や姿勢がある。</p> <p>○特性や背景を理解し、子ども一人一人を大切にすることの重要性とそのための具体的な方策について実地に学び、理解している。</p>	<p>○特性や背景を理解し、子ども一人一人を大切にすることの教育理念を具現化しようと努める。</p> <p>○多様性を大切にし、子ども一人一人が自己肯定感や自己有用感を高めながら、互いを認め合う学級（ホームルーム）を築くことができる。</p>
生徒指導	<p>○子どもが規範意識や人権意識を持って常に正しい判断ができるよう、適切に指導しようとする意欲や姿勢がある。</p> <p>○問題行動やいじめ等の課題に関する知識を有し、適切に指導するための具体的な方策について実地に学び、理解している。</p>	<p>○子どもが規範意識や人権意識を持って常に正しい判断をし、社会的資質や行動力を高めるように支援や指導ができる。</p> <p>○それぞれの特性や家庭背景等を踏まえて、一人一人を理解し、個や集団に応じた支援や指導ができる。</p> <p>○問題行動やいじめ等の課題に対して、正しく情報を共有し、関係機関を含め、組織的な対応をすることができる。</p> <p>【幼稚園】 幼児期が教師との信頼関係に支えられて、友達との関わりを深め、自己調整力や協調性、自尊心等といった、いわゆる非認知的能力を育む発達の時期であることを理解し、個々に応じた援助をすることができる。</p>
総援教育育成支	<p>○特性や背景を理解した上で、「困り」に対する適切な支援を行う重要性を認識するとともに具体的な支援の在り方について理解している。</p>	<p>○一人一人の特性や背景を理解し、「困り」に対する適切な支援や合理的配慮を行うことができる。</p> <p>○就学前からの「就学支援シート」の活用や「個別の指導計画」の作成、緊密な校種間連携による確実な引き継ぎを行い、切れ目のない指導や支援を推進することができる。</p> <p>○多様な実態について校内の共通理解を図り、適切な支援のために保護者や関係機関等と連携することができる。</p>
I 指導力活用	<p>○学校教育全体におけるICT機器の活用や情報モラルの重要性について理解している。</p> <p>○より充実した授業（保育）が実施できるよう、ICT機器を活用する授業の設計や授業の方法、教科等の特性に応じた指導方法について身に付けている。</p>	<p>○個別最適な学びと協働的な学びの実現に向けて、学習指導にとどまらず、学校教育全体においてICT機器を効果的に活用するとともに、子どものICT活用、情報モラルを含めた情報活用能力の育成を推進することができる。</p> <p>【幼稚園】 保育において、幼児の直接体験の重要性を踏まえたICT活用を検討・実践することができる。</p>

（注）基礎的・汎用的能力

「京都市生き方探究（キャリア）教育スタンダード（平成28年3月）」の中で、生き方探究教育でつきたい力として示している「人とともに社会を生きる力」、「自分を知り、律する力」、「課題を見つけ、解決する力」、「夢や希望をつくりあげる力」を参照。

指導教諭	主幹教諭
<p>○学校教育目標の達成のため、高度な知識や豊富な経験を活かして的確に職務を遂行することができる。また、学校における人材育成と教育指導の充実の要として、率先して職務に主体的に取り組むことができる。</p> <p>○学校内、保護者、地域等との連携を図りながら校務を遂行するとともに、学校の課題把握に努め、その解決に向け、企画・計画・実施するなどして、学校運営への参画とその活性化に取り組むことができる。また、指導の改善及び充実に教諭その他の職員に対して必要な指導・助言を行うとともに、他の教職員や保護者・地域等と連携し、学校教育活動の充実と推進に向けて職務を進めることができる。</p>	<p>○学校教育目標の達成のため、教職員の職務の進捗よく管理を補助するとともに、高度な知識や豊富な経験を活かして的確に職務を遂行することができる。また、校長及び教頭を助け、命を受けて校務の一部を整理し、教職員の職務の総括に関し、責任を持って的確に補助することができる。</p> <p>○学校内、保護者、地域等との連携を図りながら校務を遂行するとともに、学校の課題把握に努め、その解決に向け、企画・計画・実施するなど、学校の中核的な存在として、主体的に学校運営への参画とその活性化に取り組むことができる。</p> <p>○子ども及び学校の状況や課題を把握した上で、適切かつ効果的な自校の教育指導計画に基づいた教育活動に取り組むことができる。また、学校の中核的な存在として、他の教職員や保護者・地域等と連携し、学校教育活動の充実と推進に向けて職務を進めることができる。</p>
<p>○日常業務や公開授業等を通じて、他の教職員に適切な支援・指導・助言を行うとともに、円滑な職場運営を図ることができる。</p> <p>○子ども及び学校の状況や課題を把握した上で、より充実した教育活動を行うための自己研鑽・自己啓発に励み、能力開発と資質向上に取り組むことができる。</p> <p>○学校における人材育成の要として、校内研修の充実・活性化を図るため、教務主任、研究主任等を支援し、又は自らが企画運営を行うことができる。また、管理職や初任者指導教諭等とともに指導方針・計画の立案に参画し、他の教員と連携しながら若年教員の育成を行うことができる。</p>	<p>○日常業務を通じて教職員に適切な支援・指導・助言を行うとともに、円滑な職場運営を図ることができる。</p> <p>○子ども及び学校の状況や課題を把握した上で、より充実した教育活動を行うための自己研鑽・自己啓発に励み、能力開発と資質向上に取り組むとともに、組織的な人材育成の取組に積極的に参画することができる。</p>

養護教諭の指標

栄養教諭の指標

教員としての素養

教諭の指標と共通

養護教諭

栄養教諭

共通

採用時の姿		ステージⅠ・Ⅱ・Ⅲ、指導教諭、主幹教諭共通
京都市の教員としての自覚や使命感	<ul style="list-style-type: none"> 〇本市教育の理念である「一人一人の子どもを徹底的に大切にすること」という子どもに対する教育的愛情と教職に対する使命感や情熱をもっている。 〇本市教育の目指すべき方向について理解し、その実現に向け、取り組む意欲や姿勢がある。 〇子どもや保護者と信頼関係を築きながら、子どもと共に学び、共に成長していこうとする姿勢がある。 〇教員の職務内容の全体像や教員に課せられる服務上・身分上の義務を理解し、法令遵守を含め社会人として求められる倫理観をもっている。 〇人権尊重の精神をもち、子ども一人一人の人権や多様な価値観を尊重した教育活動の重要性を理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> 〇本市教育の理念である「一人一人の子どもを徹底的に大切にすること」という子どもに対する教育的愛情と教職に対する使命感や情熱をもち、教育実践を進めることができる。 〇本市の目指す「伝統と文化を受け継ぎ、次代と自らの未来を切り拓く子ども」の育成に向けた教育活動を推進できる。 〇法令を遵守し、誠実かつ公正に職務を遂行するとともに教育公務員としての使命を自覚し、子どもや保護者との信頼関係を築こうと努める。 〇社会の変化を意識し、広い視野と向上心をもって学び続けるとともに、幅広い教養や体験に基づいた指導力と豊かな人間性の涵養に努める。 〇人権に関する確かな理解と豊かな人権感覚をもち、子ども一人一人の個性・特性や多様な価値観を尊重した教育活動を進めることができる。 〇「見逃しのない観察」「手遅れのない対応」「心の通った指導」を常に念頭に置き、一人一人の子どもと向き合い、課題や問題に対し、その背景を的確に理解し、適切な指導と支援に努める。 〇子どもの命を守りきる教育活動・学校運営の徹底に向け、安全管理に対する自身の意識を高めるとともに組織的な取組を進めることができる。
	<ul style="list-style-type: none"> 〇周囲と円滑なコミュニケーションを図ろうとし、多様な考え方を柔軟に受け入れ、謙虚に学び続ける意欲や姿勢がある。 〇課題発見に繋がる観察力やその解決に必要な情報を収集・分析し、幅広い知見を活用して解決する力を有している。 	<ul style="list-style-type: none"> 〇学校・幼稚園教育目標の実現に向け、子どもへの丁寧な見取りや教職員間の情報共有等から多角的に自ら・園の課題を捉え、それを適切に分析し、解決に向けて取り組むことができる。 〇保護者や関係組織、地域との連携の重要性を理解し、「開かれた学校づくり」に向けて積極的に関わることができる。 〇多様な考え方を柔軟に受け入れ、謙虚に学ぶ姿勢を持ち、周囲と円滑なコミュニケーションを図ろうと努める。 〇多様な人材が活躍できる職場づくりに努めるとともに、「真のワーク・ライフ・バランス（仕事と家庭、社会貢献の調和）」の視点を踏まえ、ICTも活用しながら、学校における「働き方改革」を意識した職務を遂行することができる。
生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> 〇子どもが規範意識や人権意識を持って常に正しい判断ができるよう、適切に指導しようとする意欲や姿勢がある。 〇問題行動やいじめ等の課題に関する知識を有し、適切に指導するための具体的な方策について実地に学び、理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> 〇子どもが、規範意識や人権意識を持って常に正しい判断をし、社会的資質や行動力を高めるように支援や指導ができる。 〇それぞれの特性や家庭背景等を踏まえて、一人一人を理解し、個や集団に応じた支援や指導ができる。 〇問題行動やいじめ等の課題に対して、正しく情報を共有し、関係機関を含め、組織的な対応をすることができる。
総合育成支援教育	<ul style="list-style-type: none"> 〇特性や背景を理解した上で、「困り」に対する適切な支援を行う重要性を認識するとともに具体的な支援の在り方について理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> 〇一人一人の特性や背景を理解し、「困り」に対する適切な支援や合理的配慮を行うことができる。 〇就学前からの「就学支援シート」の活用や「個別の指導計画」の作成、緊密な校種間連携による確実な引き継ぎを行い、切れ目のない指導や支援を推進することができる。 〇多様な実態について校内の共通理解を図り、適切な支援のために保護者や関係機関等と連携することができる。
ICT活用指導力	<ul style="list-style-type: none"> 〇学校教育全体におけるICT機器の活用や情報モラルの重要性について理解している。 〇より充実した授業が実施できるよう、ICT機器を活用する授業の設計や授業の方法、教科等の特性に応じた指導方法について身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> 〇個別最適な学びと協働的な学びの実現に向けて、学習指導にとどまらず、学校教育全体においてICT機器を効果的に活用するとともに、子どものICT活用や情報モラルを含めた情報活用能力の育成を推進することができる。

学校づくり

教諭の指標と共通

養護教諭

栄養教諭

共通

※指導教諭、主幹教諭については、教諭の指標を参照してください。

採用時の姿		ステージⅠ (主に採用1～5年目)	ステージⅡ (主に採用6～14年目)	ステージⅢ (主に採用15年目以上)
		教員としての基礎・基本の徹底を図る。	学年や分掌等のチームリーダーとして学校運営に参画する。	管理職等を補佐し、学校運営において中心的な役割を担う。
参画校と運営性への	<ul style="list-style-type: none"> 〇「報告・連絡・相談」を徹底し、他の教職員と協調しながらチームとして仕事を進めることの大切さを理解している。 〇学校教育活動の推進のためには保護者や地域、関係機関との協働が重要であることを理解し、自身も積極的に関わろうとする意欲や姿勢がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 〇校務分掌や学校運営の仕組みを理解し、自分に課された校務分掌の仕事責任をもって果たすことができる。 〇チーム学校という考え方や保護者、地域等と連携することの意義を理解し、管理職や他の教職員に「報告・連絡・相談」をしながら教育活動の充実に取り組むことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 〇効率的に分掌間の連携や情報共有を図るとともに、分掌の要として、自校の課題解決に向けた取組を企画・調整することができる。 〇保護者・地域、他校種や関係機関との連携の意義をステージⅠの教員に伝え、また、自分自身がそうした連携に積極的に関わって、教育活動の充実に取り組むことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 〇分掌主任に対する助言を行うとともに、自校の課題を捉え、管理職や主幹教諭、指導教諭等と協働しながら、その解決に取り組むことができる。 〇保護者・地域、他校種や関係機関との連携において、管理職を補佐し、組織的に教育活動の充実に取り組むことができる。
	〇JITの推進	<ul style="list-style-type: none"> 〇学校組織の一員としてOJTに関わり、自身の資質・指導力を高めることができる。 〇校外研修や研究会活動等で学んだことを積極的に同僚に伝えること等を通して、学校園の組織力の向上に貢献できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 〇学年・学校全体へ視野を広げ、得意分野や専門性を活かし、ステージⅢの教員との連携やステージⅠの教員への指導、助言等を通して自身の資質・指導力を高めることができる。 〇教職員間で、課題や悩みに気付かせ、支え合える環境をつくることと、ステージⅠの教員を組織的に支援し、力を発揮できる組織づくりを行うことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 〇豊富な経験を活かし、広い視野でOJTに関わり、ステージⅠ・Ⅱの教員への指導、助言等を通して自身の資質・指導力を高めることができる。 〇管理職等と連携・協働しながら、ステージⅠ・Ⅱの教員に対し、具体的に適切な助言を日常的に行い、OJTを通して専門的な知識や技能を伝え、学校園の組織力の向上に取り組むことができる。

養護教諭 専門領域

養護教諭

採用時の姿

- 子どものけがや病気、事故等への対応について、必要な知識と具体的な対処方法を理解している。
- 学校保健安全法や学習指導要領に基づく保健管理、保健教育に関する基本的な知識を有している。
- 健康相談や保健室経営の方法を理解している。

ステージⅠ・Ⅱ・Ⅲ・指導教諭・主幹教諭共通

保健管理

- (健康診断)
 - 教職員の共通理解のもと健康診断を実施し、子どもの心身の健康問題を早期に発見して事後措置を適切に行うとともに、その結果を健康教育に活かすことができる。
- (救急処置)
 - 症状の的確な見極めと総合的な判断をし、適切な対応ができる。
 - 救急処置に関わる校内研修の企画運営に積極的に参画し、組織的な救急体制を整えることができる。
- (健康観察)
 - 健康観察の目的や留意点について教職員の共通理解を図り、学校の実態に応じて組織的に進めることができる。
 - 健康観察の結果を分析し、児童生徒の心身の健康問題の早期発見・早期対応に努めることができる。
- (疾病の管理と予防)
 - 全教職員の共通理解のもと、保護者や主治医、学校医、地域の医療機関等と連携し、疾病に罹患している子どもが安心して学校生活を送ることができるように支援ができる。
 - 感染症の予防と発生時の対応について、教職員に周知を図り、迅速な措置を行うことができる。
- (環境衛生)
 - 学校において健康的な学習環境を確保するために、定期検査、日常点検及び臨時検査を適切に実施し、結果を評価し、改善を図ることができる。

保健教育

- 保健教育における養護教諭の役割を理解した上で、学級担任等と連携し、養護教諭の専門性を活かした保健教育を実施できる。

健康相談

- 子どもの心身の健康問題に関して専門的な観点から、健康相談の必要性の判断や受診の必要性の判断を行い、健康相談と個別の保健指導を実施できる。
- 専門スタッフ(学校医やSC・SSW等)、地域の関係機関等との連携におけるコーディネーターの役割を果たすことができる。

保健室経営

- 学校教育目標の具現化を図るため、子どもの健康課題を的確に捉え、立案された保健室経営計画のもと、保健室経営を行うことができる。

保健組織活動

- 保健組織が主体的に活動できるよう、企画運営に参画し、内容の工夫や改善に努めることができる。

栄養教諭 専門領域

栄養教諭

採用時の姿

- 学習指導要領に基づく食に関する指導について、必要な知識や指導方法を理解している。
- 学校給食法や学校給食摂取基準に基づく栄養管理に関する基本的な知識を有している。
- 学校給食衛生管理基準に基づく衛生管理に関する基本的な知識を有している。

ステージⅠ・Ⅱ・Ⅲ・指導教諭・主幹教諭共通

食に関する指導

食育の推進

- 管理職や学級担任をはじめとする全教職員が、子どもたちの健康の保持増進に向け健全な食生活の実現に取り組み、食育をより推進できるよう、コーディネーターの役割を果たすことができる。
- 子どもの実態を踏まえ、食に関する年間指導計画を作成することができる。

給食時間における指導

- 京都市の特色ある献立を通して、教科等で取り上げられた食品や学習したことについて確認させるとともに、知産知消や栄養的な特徴について指導することができる。
- 喫食状況から、児童生徒の個々の課題を的確に捉え、専門的な観点から摂食指導を行うことができる。

教科等の指導

- 学習指導要領を理解し、当該教科の目標や内容に沿った「食育の視点」を位置づけ、学級担任と連携し、食に関する指導を実施することができる。

個別的な相談指導

- 子どもの食に関する健康課題や栄養相談について専門知識を有し、食物アレルギー等の個々の状況に応じて、教職員へ周知を図るとともに、的確な対応ができる。
- 必要に応じて、保護者に対する助言等、専門性を活かした家庭への支援を行うことができる。

給食管理

栄養管理(献立作成)

- 学校給食実施基準に基づき、本市の特色を理解した上で、献立作成ができる。
- 食事状況調査や残食調査等により実態を把握し、より適切な栄養管理を行うことができる。

衛生管理

- 学校給食衛生管理基準に基づき、衛生管理責任者としての役割を理解した上で、作業工程表や作業動線図等を活用し、食品調理作業、施設設備等、衛生管理の徹底を図るとともに、日常的に評価・改善に努め、必要な場合は管理職に申し出るとともに、措置を講じることができる。
- 学級担任等を行う衛生管理に係る指導について、専門的な立場から指導・助言を行うことができる。
- 食物アレルギーの原因食材を把握するとともに、除去工程を理解したうえで、衛生管理について指導・助言を行うことができる。

管理職の指標

<div>観点</div> <div>職種</div>		副校長・教頭	校園長
		学校(幼稚園)教育目標の実現に向け、校・園長と共に学校(幼稚園)経営に参画するとともに、責任をもって教職員の職務を的確に統括する。	学校・幼稚園の最高責任者として学校(幼稚園)教育目標の実現に向け、その方針を示すとともに、教職員を指導監督し、責任をもって学校・幼稚園を円滑かつ確実に経営する。
資質・識見	使命感・責任感	<ul style="list-style-type: none"> ○子どもや保護者をはじめとする地域社会から信頼され、教職員直属の上司である教頭としての自覚と責任の下、教育の充実を図ることができる。 ○労働安全衛生に留意するとともに、真のワーク・ライフ・バランスの視点も踏まえながら、学校における「働き方改革」を意識した学校運営を進めることができる。 ○法令遵守の風土の醸成に向け、教職員個々の課題や悩みを把握し、適切な指導や助言を行うとともに、組織として力を十分に発揮できる職場づくりに向けて校園長に進言できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○子どもや保護者をはじめとする地域社会から信頼される校園の最高責任者として、困難な課題に果敢に挑み続け、指導監督下の教職員に対しては、指導しきる胆力をもって常に対処することができる。 ○教頭と共に労働安全衛生に留意するとともに、真のワーク・ライフ・バランスの視点も踏まえながら、学校における「働き方改革」を意識した学校運営を進めることができる。 ○法令遵守の風土の醸成に向け、教頭と連携し、教職員への適切な指導や助言を通じて、士気の高揚に努め、組織として力を十分に発揮できる職場づくりを推進できる。
	自己職能開発	<ul style="list-style-type: none"> ○国や本市の施策をはじめ、公教育を取り巻く状況等の情報を幅広く収集し、対応策の検討や教職員への指示、指導等を行うことができる。 ○学校経営の中核を担う者として求められる能力の向上に絶えず努め、率先して学び続ける教職員の範となる姿を示すことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○国や本市の施策をはじめ、公教育を取り巻く状況等の情報を幅広く収集し、対応策の検討や教職員への指示、指導等を行うことができる。 ○校園長として求められる能力の向上に絶えず努め、率先して学び続ける教職員の範となる姿を示すことができる。
	人権感覚	<ul style="list-style-type: none"> ○教職員・子ども・保護者等の一人一人を大切にしたい学校経営に向け、校園長を補佐し、校内体制の整備等を進めることができる。 ○豊かな人権感覚を備え、本市が掲げる人権教育の4つの視点を踏まえ、教職員や子どもの範となるよう、自身の意識の向上と周囲への率先した情報発信に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○教職員・子ども・保護者等の一人一人を大切にしたい学校経営に向け、教職員を総括し、校内体制の整備等を進めることができる。 ○豊かな人権感覚を備え、本市が掲げる人権教育の4つの視点を踏まえ、教職員や子どもの範となるよう、自身の意識の向上と周囲への率先した情報発信に努める。
	リーダーシップ	<ul style="list-style-type: none"> ○校園長の経営方針の具現化に向け、校園長を補佐し、教職員組織をまとめあげ、指導・助言を行うとともに、確実な進行管理の下、教育活動を推進できる。 ○校園長の教育ビジョンや方針に対し、先を見据えた提案を行う等、校園長に進言することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学校園経営の最高責任者として、ゆるぎない自校園の教育ビジョンの下、教職員への的確な指示や指導を行うことができる。 ○時節を捉えた先見性、大局観に基づく計画と実践を行うとともに、将来を見据えた教職員の大胆な企画や取組を推奨し、実現を図ることができる。

観 点		職 種	副校長・教頭	校 園 長
学 校 ・ 幼 稚 園 経 営	課題把握と ビジョンの設定		○学校経営上の課題を把握し、校園長の意思決定において補佐するとともに、校園長が示す教育ビジョンや方針が全般的な実践に繋がるよう企画調整をすることができる。	○今日的な教育課題や本市方針、学校園・地域等の実態等を総合的に勘案したうえ、中・長期的教育ビジョンのもとで学校経営方針を策定することができる。
	学校教育活動 の充実と推進		○校園長を補佐し、自校園の教育課程を編成するとともに、教職員がカリキュラム・マネジメントの視点で教育活動を推進できるよう、連携・協働体制を構築することができる。	○自校園の課題を明らかにし、校務分掌や予算編成など学校運営の要素も踏まえ、学校教育目標の達成に必要な教育課程を組織的に編成することができる。 ○教科間・学年間の関連や校種間の連携を意識した系統的な教育課程の編成・実施等により、学びの連続性を踏まえた教育活動の充実を図ることができる。
	教育の情報化		○GIGAスクール構想(1人1台端末)を踏まえ、校長を補佐して校内体制を整備し、「情報活用能力の育成」、「教科等の指導におけるICT活用」、「校務の情報化」等の教育の情報化を多面的に推進することができる。 【幼稚園】 園長を補佐し、保育において、幼児の直接体験の重要性を踏まえたICT活用を推進することができる。	○教育ビジョンをGIGAスクール構想(1人1台端末)を踏まえて策定するとともに、校内体制を整備して、的確な指導と指示を行うことで、「情報活用能力の育成」、「教科等の指導におけるICT活用」、「校務の情報化」等の教育の情報化をあらゆる角度から推進することができる。 【幼稚園】 保育において、幼児の直接体験の重要性を踏まえたICT活用を推進することができる。
	組織づくり・ 環境整備		○子どもが高い意欲をもって安心して学ぶことのできる学校・園環境の整備・充実に向け、校園長等との連携の下、適正に業務を進めることができる。 ○校園内の情報共有の促進や教職員の学校経営への参画の推進等を図り、学校教育目標の達成に向けた組織づくりを進めることができる。 ○業務の改善(会議・研修の効率化等)を校園長に進言し、組織的に取り組むことができる。	○子どもが高い意欲をもって安心して学ぶことのできる学校・園環境の整備・充実に向け、教頭や教職員へ適切な指示を行いながら、組織的な取組を推進することができる。 ○教職員一人一人のよさと課題を把握し、若年・女性教職員の積極的な登用等、適材適所の業務分担を行うとともに、限られた時間の中で最大の成果を得るための業務改善を図ることができる。
	人材育成		○教職員個々の適性や能力、キャリアプランを把握し、的確な助言を行うとともにOJTの推進等、人材発掘・育成に向けた取組を推進することができる。	○教職員個々の適性や能力、キャリアプランを踏まえ、校務分掌を勘案する等により、職能開発と中長期的なキャリアアップの視点から、人材育成を進めることができる。 ○教頭や主幹・指導教諭、教務主任などに学校経営への積極的な参画を促し、次世代を担う人材の育成を進めることができる。
	外部との連携		○保護者や地域、関係機関等へ学校教育活動全般にわたり理解が得られるよう、情報収集を的確に行う等、円滑な対応で信頼関係を構築できる。 ○自校園の教育課程編成について、学校・家庭・地域の役割分担を明確にして保護者をはじめとする地域社会に発信し、「社会に開かれた教育課程」の実現に努める。	○保護者や地域、関係機関等へ学校教育活動全般にわたり理解が得られるよう情報収集・発信するとともに、共に課題や行動を共有する等により、信頼関係づくりを率先して行うことができる。 ○学校運営協議会をはじめ保護者、地域等様々な学校支援の取組を効果的に組み合わせ、「社会に開かれた教育課程」を実現することができる。
	危機管理		○危機管理体制を把握し、学校全体を見渡し迅速で適切な情報収集・周知を行う等により校園長に進言し、危機の未然防止策を講じることができる。 ○危機発生時等の不測の事態には教職員への的確な指示及び校園長との報告・連絡・相談を迅速に行い、事態の収拾に適切にあたることができる。	○危機管理体制を把握し、教頭をはじめ校務の中核をなす分掌担当者を総括し、危機の未然防止策を講じることができる。 ○危機発生時等の不測の事態には、的確かつ先見性のある判断を行うとともに、校内組織と関係諸機関との調整を迅速に図り、収束まで粘り強い対応を行うことができる。